

① 3次元CADデータ(DXF)から入力モデルへの連携

データ変換ツールを使って3次元CADで作成した地層形状からCOSTANA-3Dの入力データを短時間で簡易に作成できるようになりました。DXF(Polyline)データ→TIN→ラスタの順にデータ変換して、COSTANA-3Dの入力データとして連携します。

データ変換ツール

DXFデータ → TINに変換 → TINデータ → ラスタに変換 → ラスタデータ

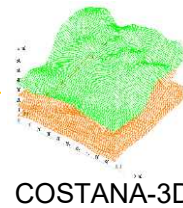
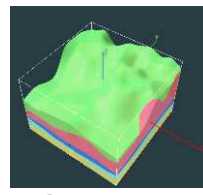
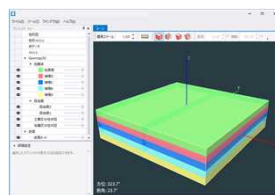
DXFデータ
TINデータ
ラスターデータ

DXFデータがあれば短時間でモデル化が可能

(従来)
旧バージョンでは複数の2次元断面を入力する必要があり、3次元モデルの作成に手間が掛かっていました。また、起伏の激しい形状はうまくモデル化できませんでした。

② 3次元地盤モデリングシステムGeomap3D(ジエスアイ社製(別売り))との連携

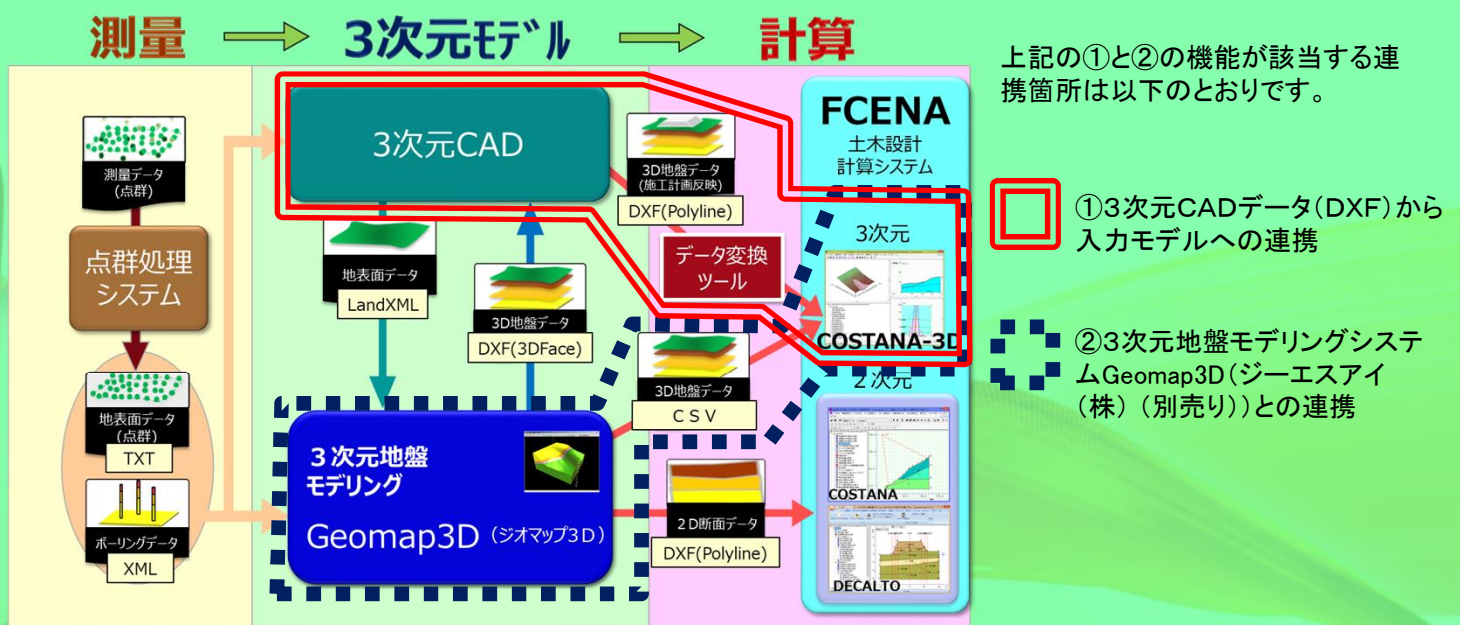
Geomap3Dで作成した地盤モデルをCOSTANA-3Dに連携することができるようになりました。



Geomap3Dでは、複雑な地層境界面をモデル化でき、その形状を連携できます。

③ メッシュ(DEM分割要素数)制限値の拡張

メッシュ(DEM分割要素数)が縦100メッシュ×横100メッシュ=10,000メッシュから縦200メッシュ×横200メッシュ=40,000メッシュに制限値が拡張されました。



上記の①と②の機能が該当する連携箇所は以下のとおりです。